

新日鉄、無償提供の

上野台

団地売却!!!

日本共産党

= 市は土地売買届書を見て、
公共施設敷地の売却を知る =

こんな事でいいの!

児童館・敬老の家の敷地もまるごと売却

上野台団地（一部を除く）が九月に売却されました。東海市はそれを県に出された土地売買届書が、市に回ってきて始めて知り、団地内にある、児童館・敬老の家・集会所など公共施設敷地も丸ごと売却されていることがわかり、あわてて新日鉄に尋ねるといふ状況でした。

企業は無償で貸している公共施設の敷地を、市に正確な事前の情報提供もせずには売るといふ事態が起きました。

上野台社宅住居者など

100名余りに退去が!

労働組合の機関紙によると、上野台東部社宅は来年五月末、中部社宅・西部社宅（高横須賀社宅も同時に）は来年十月末に閉鎖します。新たな居住施設として上野台グラウンド跡地に社宅新設と製鉄所近郊に外部賃貸施設を提供します。

そこに、社宅は四十五歳未満、寮は三十五歳未満の従業員は入居することが出来ます。

しかし、様々な事情で入居年齢を過ぎて一年契約で更新して住んでいた人たち一〇〇名余りは、一年の猶予しか与えられず、社宅を（特例を除き）退去させられるようです。



児童館はどうなるの?

新日鉄は地域住民への責任と社会的貢献を

この上野台団地は、県が東海製鉄所を誘致するため、住宅用地として十万坪を用意し、無償で提供した土地です。

この土地を従業員の福利厚生施設として使うのではなく、企業の儲けのため売却しました。さらに、このことを市には事前の情報提供もしないなど、社会の常識からは考えられないことが行われました。

団地がどうなるかは、地域住民だけではなく、まちづくりにも大きく影響します。新日鉄は地域住民や行政に対して社会的責任があり、企業に、地域への責任と社会的貢献を果たすよう求めていこうではありませんか。